衛生委員会だより

~アルコール編~



お酒は体に対してさまざまな作用を引き起こしますが、これらはお酒の成分である「アルコール」が原因です。 飲酒の量が適量であればストレス解消などの良い面もありますが、過量になると、身体的にも心理的にも社 会的にも悪影響をおよぼすことにつながります。

Q お酒を飲みすぎるとどんな病気になるの?

A お酒を飲みすぎることで、急性アルコール中毒、肝臓病や心臓病など様々な病気を引き起こします。 以下、多量の飲酒によって生じる病気の一部を挙げています。

脳・・・急性アルコール中毒、アルコール依存症、アルコール性認知症 **心臓・・・**心筋症、不整脈

食道・・・食道炎、食道がん、食道静脈瘤 胃・・・胃炎、胃潰瘍 腸・・・下痢

肝臓・・・脂肪肝、アルコール性肝炎、肝硬変 膵臓・・・急性膵炎、慢性膵炎

代謝・・・糖尿病、脂質異常症、高血圧、高尿酸血症、痛風神経・・・末梢神経障害

貧血···大球性高色素性貧血 **性器···**性機能障害

Q お酒の適量はどのくらい?

A <mark>適量の例</mark>



ビール 500ml 5%



チューハイ 350ml 7%



ワイン 180ml 14%



日本酒 180ml 15%



焼酎 100ml 25%

~アルコール量の計算式~

お酒の量(ml)×[アルコール度数(%)÷100]×0.8 (例)ビール中瓶 1 本 500×[5÷100]×0.8=20

アルコールを飲む適量の目安とされるお酒の1単位とは、純アルコールに換算して約20gです。上記の <mark>絵の量がこの適量の目安となります。</mark>性別や体重などの個人差や環境によっても異なりますが、この量 がほろ酔い気分になる程度の目安であり「適量」であると覚えておくと良いでしょう。

※一般的に女性は男性に比べてアルコール分解速度が遅いことや臓器障害を起こしやすいことから、女性はこの半量程度が適量とされています。

○ どんなお酒の飲み方が良いの?

A お酒を飲む際に注意する点について、4つお伝えします。 これらに気を付けることで二日酔いを防いだり、健康に配慮したりした飲み方につながります。

あらかじめ量を決めて飲酒する

飲む量をあらかじめ決めておくことで、過度 な飲酒を避けることにもつながると言われ ています。

イベントなどで飲む際も何をどのぐらい飲む か、事前に決めておくことも大切です。

飲酒前や飲酒中に食事をとる

血中のアルコール濃度を上げにくくし、お酒 に酔いにくくする効果があります。お酒のお つまみには枝豆や豆腐などがオススメで す。どちらにもアルコールの分解能力を高 める成分が含まれています。

強いお酒は薄めて飲む

ウイスキーや焼酎など、アルコール度数の 高いお酒は、酔いが回りやすく、肝臓への 負担も高まります。水などで薄めて、ゆった りとしたペースで飲みましょう。

一週間のうち飲酒しない日をつくる

毎日飲酒を続けた場合、アルコール依存症の発 症につながる可能性があります。肝臓への負担 を減らすためにも、週に2日は休肝日をつくるよ うにしましょう。

分割に関する豆知識

Qお酒を飲むとなぜ酔うの?

▲口から入ったアルコールは胃や小腸から吸収されて、血液に入り、全身にいきわたります。その際、血液に 入ったアルコールが循環されて脳にも到達します。すると、アルコールが脳の神経細胞に作用し、麻痺させま す。その結果、酔った状態になります。

Q酔いがさめるまでの時間はどのぐらい?

A体重約 60 kgの人が 1 単位のお酒を 30 分以内に飲んだ場合、アルコールは約3~4時間体内にとどまり ます。2単位の場合ではアルコールが体内から消失するまで、約6~7時間かかります。ただし、これには個人 差があるため、体質的にお酒に弱い人や女性はもっと長い時間がかかります。また、深夜まで飲んでいると 翌朝起床後まで体内にアルコールが残っているため、二日酔いとなってしまいます。

お酒との正しい付き合い方を知って、適度に楽しんでいきましょう★

<引用・参考>

健康に配慮した飲酒に関するガイドライン(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/001211974.pdf

お酒と健康 飲酒の基礎知識 公益社団法人アルコール健康医学協会 https://arukenkyo.or.jp/health/base/考えてみよう!お酒と健康の関係 アサヒグループホールディングス https://www.asahibeer.co.jp/csr/tekisei/health/

